

三原市立本郷小学校 第2学年 道徳科学習指導案

教材名：「ぐみの木と 小鳥」

指導者 三原市立本郷小学校 T1 稲谷 沙紀
T2 溝上 孝弘

- 1 日 時 平成30年6月26日（金）第5校時（13：55～14：40）
- 2 場 所 2年3組教室
- 3 学 年 2年3組（男子12名、女子12名 計24名）
- 4 主 題 名 だれにでもやさしく B 親切, 思いやり
- 5 本時のねらい 小鳥がぐみの実をりすに届けようとしたときの気持ちを考えることを通して、相手に対する思いやりの心を持ち親切にすることの大切さや互いの立場のよさを考えさせ、困っている人に温かい心で接しようとする心情を育てる。
- 6 教材名 「ぐみの木と小鳥」（「小学道徳 生きる力2」日本文教出版）
- 7 主題設定の理由

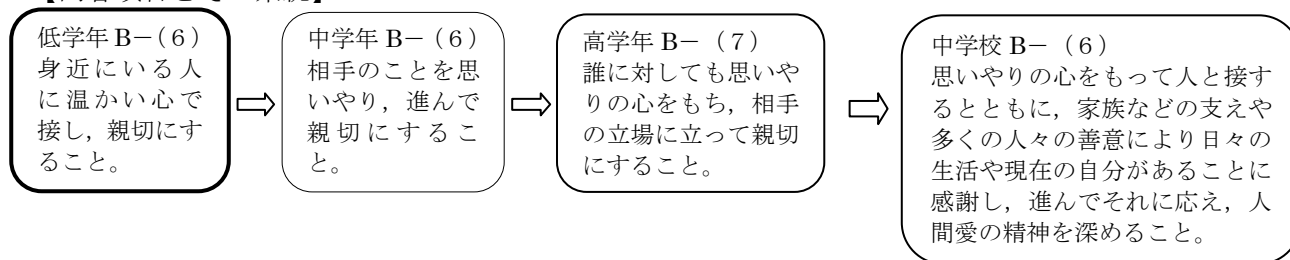
(1) 主題について

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では「B 主として人との関わりに関すること」の（6 親切, 思いやり）の1・2年生指導内容項目の中で、「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」を取り上げている。

思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりしては望ましい人間関係を構築することはできない。お互いが相手に対して思いやりの心をもって接するという考えを育成することが大切である。そのためには、相手の存在を受け入れ、相手の良さを見出そうとする姿勢が大切である。

児童の発達段階においては、家族だけでなく家の周りの人や学校の人々、友達などとの関わりが次第に増えてくる。発達的特質から自分中心の考え方をすることが多いが、様々な人々との関わりの中から相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりしたうえで具体的に親切な行為ができるように指導していくことが大切である。

【内容項目とその系統】



(2) 児童観

本学級の児童は、消極的でなかなか友達と関わることのできない児童や、自己主張が強く些細なことでも言い争いをする児童もいるが、初めてのクラス替えから約2か月が経ち、徐々に学級としてまとまりが見られるようになってきたところである。また、進んで教師の手伝いをしたり、困っている友達に声をかけたりする児童が多く、一人の優しさが次の優しさへとつながりつつある。思いやりや親切の指導については、日常生活において、友達と関わる機会を意図的に設定し、相手を思いやる気持ちを育ててきた。例えば、帰りの会では「今日のありがとう」の時間を設け、友達に親切にしてもらったことなどの発表をさせている。また、算数の授業で練習問題を解く際には「ミニ先生」として教室の中を自由に歩かせ、友達に声をかけてアドバイスするという活動を取り入れている。そうした関わりを認め称賛することによって、人として望ましい行為のモデルを身近な友達から示し、指導を続けている。

さらに、新1年生が入学し、お兄さんお姉さんとしての自覚が芽生え進んで声をかける姿が見ら

れた。生活科では、「1年生を迎える会」として1年生と仲良くなるために、司会進行をするとともに1年生に自分たちで考えた遊びを優しく教えるなど自分よりも若い人への思いやりや優しい行動についても学んできたところである。しかし、まだまだ自分中心に考えることが多く、自分の都合で意地悪を言ったり、困っている友達がいても、見て見ぬふりをしてしまったりすることもある。また、限られた友達に対しての思いやりの気持ちや親切な行為に留まる場合も少なくない。

そこで本時では、自分の都合でなく、身近な人に広く目を向け、温かい心で接し、親切にすることの考えを深化させたい。そして、その思いやりの気持ちや親切な行為が相手の喜びとなり、結果として自分の喜びや充実感につながることを理解させ進んで親切にする態度を育てたい。

(3) 指導観

本教材は、「ぐみの木」がりすを心配する気遣いを受けて、代わりに「小鳥」がりすを献身的に支え、励ます物語である。ある嵐の日、小鳥はりすのところへ行こうか行くまいか迷うが、葛藤の末病気のりすを思いやる気持ちから、力をふりしぼってぐみの実を届けに行く内容である。

まず、りすを心配するぐみの木の気持ちに寄り添い、病気のりすのためにお見舞いに行く場面ではぐみの木の代わりにお見舞いに行き、病気のりすのことを思いやる小鳥の気持ちに共感させたい。次に、やみそうもない嵐の中、小鳥がりすのところへ行かかを迷う場面である。ここでは、りすを思いやる気持ちと嵐で自分がひどい目に合うかもしれないという気持ちとの間で揺れる小鳥の気持ちに共感させたい。最後に小鳥がやっとの思いでりすのところへ着き、「こんな嵐の中をありがとう。」と言われた場面で相手を思いやり、親切にしたことで感謝された小鳥の心に残った暖かな気持ちについて考えさせたい。

指導にあたっては、主体的な学びをしていくために、導入時に「思いやりのある人」とはどんな人か思いやりに対する現在の捉えを共有する。その際、日々の生活の中で身近な人から思いやりのある行動をされたことやしたことについて具体的な場面やその時の気持ちを想起させ本時のねらいに対する方向づけを行う。展開では、場面の状況を分かりやすくするために紙芝居の絵を場面絵として利用する。

対話的な学びをしていくために、全体で話し合うだけでなく、ペアトークを取り入れて、友達の意見にふれさせる。中心発問においては自己内対話をしながら自分の考えを道徳ノートに書かせる。その上で全体で話し合い、自分や友達の意見に共感したり比べたりできるように板書に整理する。

深い学びをしていくために、小鳥が嵐の中りすにぐみの実を苦労して持って行った場面の役割演技を取り入れる。役割演技によって親切をしたりされたりしたことに対する喜びの気持ちを体験的に実感させる。また、「親切な行為をした小鳥」と「親切をされたりす」の両方の立場の心情を想像させることによって多面的多角的に考えさせていく。中心場面においては、本学級の児童の多くが「助けに行く」という考えになると予想されるが、誰もが持つ人間的な弱さにも共感しつつ、それを乗り越えて親切な行動をとった小鳥の気持ちを考えさせ、温かい心で接し、親切にすることを惜しまない態度のすばらしさについて、自分との関わりで考えさせたい。

◎研究テーマとの関係

【研究主題】

「誰もが学ぶ喜びと自信がもてる、主体的・対話的で深い学びの創造」

○主体的な学び

- ・導入時に道徳的問題にふれ、課題意識をもつ。
- ・自分自身との関わりでとらえ、考える。
- ・新たな学びを自覚する。

○対話的な学び

- ・協働し、対話する学び。
- ・多面的・多角的に考える。

○深い学び


- ・教師の指導方法の工夫により、新たな気づきや変容がある。

8 本時の展開

(1) 準備物

- 紙芝居（場面絵としても利用する）
- ぐみの木の実際の写真
- 役割演技に使うお面

(2) 学習の展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	T1	T2	指導上の留意点 (※評価)
導入	1 思いやりのある人について考え、思いやりのある行動をしてももらったことやその時の思いを想起する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「思いやりのある人」とはどんな人ですか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい人。 ・相談に乗ってくれる人。 ・困ったときに助けてくれる人。 (例えばどんなことをしてもらったことがありますか。) ・サッカーに入れてくれた。 ・忘れていた水筒をとどけてくれた。 ・休んだ時に本 GO ノートを書いてくれた。 	板書	発問	㊦ 「思いやりのある人」について今の捉えを共有しておき、本時の学習への方向付けを行う。 ○自分たちの日頃の様子を振り返らせながら、ねらいとする道徳的価値に対しての問いをもたせていく。
展開	2 教材「ぐみの木と小鳥」を聞いて話し合う。	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">おもいやりのころとは</div>	資料提示	板書	○ぐみの木の写真を実際に見せる。 ㊦ 資料に登場するぐみの木、小鳥、りすを紹介してそれぞれの気持ちを考えながら聞くことを伝え見通しを持たせる。 ㊦ 誰が何をしているか場面の状況をつかませるため紙芝居にして読み聞かせをする。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">涙を浮かべながらぐみを食ったりすは、心の中でどんなことを思っているでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小鳥さんありがとう。 ・ぐみがとってもおいしいよ。 ・元気になれそうだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">涙を浮かべてぐみを食べるりすを見て小鳥はどんなことを思っているでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・来てよかったな。 ・明日も来よう。 ・りすさんが元気になりますように。 	発問	板書	㊦ 場面の状況を分かりやすくするために紙芝居の絵を板書へ利用する。 ○親切をされた側の気持ち（親切をされると嬉しい気持ち）と親切をした方の気持ち（親切をすると心が温かくなる気持ち）をおさえておく。 ○小鳥が親切をしてよかったという気持ち

	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">小鳥は嵐を見つめながら心の中で何とつぶやいたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気で苦しんでいるりすさんが待ってる。 ・りすさんに早く会いたい。 ・りすさん大丈夫かな。 ・しんどいけどりすさんが待ってる。 ・嵐だけど早くいかなきゃ。 <ul style="list-style-type: none"> ・大嵐の中飛ぶのは危ない。 ・雨に濡れたくないなあ。 ・嵐がやんでからいこう。 <p>(小鳥が嵐なのりにすのところへ行っただのはなぜでしょう。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんのことが心配だから。 ・早く元気になってほしいから。 ・りすさんとぐみの木さんを早く会わせてあげたいから。 ・りすさんの笑顔が忘れられないから。 ・自分も大変な目に合うかもしれないけれどりすさんの方がもっとしんどいはず <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">やっとの思いでりすのうちについて小鳥。りすと小鳥はどんな話をしたでしょう。</p> <p>小鳥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぐみを持ってきたよ。 ・君のことがとても心配だったんだ。 ・これを食べて早く元気になってね。 <p>りす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとう。嵐の中大変だったでしょう。 ・ぼくのために来てくれてうれしいよ。 ・小鳥さんのおかげで元気が出たよ。 ・ぐみの木さんにももうすぐ会えそうだよ。 <p>(劇をしてどんな気持ちになりましたか。)</p> <p>(劇を見て小鳥またはりすは今どんな気持ちだと思いますか。)</p> <p>小鳥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ってきてよかった。 ・喜んでもらえた。 ・なんだかぼくもううれしい。 <p>りす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心配してくれてありがとう。 ・小鳥さんが来てくれてうれしい。 	発問	板書	<p>になったことをつかませるために小鳥が笑顔になったことに注目させる。</p> <p>⑧ 道徳ノートに自己内対話をしながら、自分の考えを書く。</p> <p>⑨ ペアトークを行い、友達の考えにふれる。</p> <p>⑩ 葛藤の気持ちを持たせるために小鳥にとって嵐の中飛ぶことは命がけであることを知らせる。</p> <p>○ 机間指導を行い各児童の考えを把握し、次の指名に役立てる。</p> <p>○ 主人公の行動を通して、共感的理解を深めていく。</p> <p>⑪ ペアで台詞を考えさせ、役割演技をさせる。</p> <p>⑫ 小鳥とりすの役割演技をさせることにより、親切をしたときの温かい気持ちを体験的に実感させる。</p> <p>⑬ りすと小鳥の両方の立場から多面的・多角的に考えさせていく。</p> <p>○ 小鳥とりすの言葉を考えることにより親切は双方が温かい気持ちになることをおさえる。</p> <p>※ 思いやりの心を大切にしようとする心情を深め、今後の生活に自分なりに発展させ</p>
		発問	板書	

		<ul style="list-style-type: none"> ・親切にしてくれてありがとう。 			せていこうとしたか。(ノート 発表見取り)
終末	4	今日の新たな発見, 学びについて, ふりかえり「OMOIYARIのうた」を聞きましょう。お気に入りの歌詞に線を引きましょう。	進行	板書	③ 温めた価値を振り返りながら余韻をもって終わる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりに包まれて生まれてきた。 ・倒れそうな人にはそっと手を差し伸べて。 ・思いやりは心を温めるプレゼント。 ・ありがとうって言われたらなぜかうれしくなったよ。 ・思いやりは世界を幸せにする魔法。 (その歌詞を選んだわけを言いましょう。) <ul style="list-style-type: none"> ・家の人から思いやりいっぱい育ててもらったから。 ・困っている人を助けたいと思ったから。 ・思いやりはあったかくなるから。 ・思いやりはしたほうもうれしくなるから。 ・思いやりでいっぱいになったら世界が幸せになると思ったから。 			

9 板書計画

